

一般講演・ポスター発表 P-10

須磨海浜水族園におけるアカミミガメ防除の試み

三根佳奈子・谷口真理・亀崎直樹（神戸市立須磨海浜水族園）

Removal of Red-eared slider, *Trachemys scripta elegans*, by Kobe Suma Aquarium

Kanako MINE, Mari TANIGUCHI, Naoki KAMEZAKI (Kobe Suma Aquarium)

北米原産の外来種ミシシッピアカミミガメの防除を兵庫県神戸市須磨区の比較的小規模な池2か所(須磨寺周辺堂谷池:面積9400㎡, 奥須磨公園内小松池:2200㎡)において実施した。防除は2011年6-8月に淡水カメ捕獲専用開発した定置網(W60cm×D100cm×H50cmを用いて集中的に実施した。加えて、防除の効果を確かめるための調査を、防除後の2012-2013年の5-10月に月に回程度、淡水カメ捕獲専用の網(W56cm×D70cm×H50cm)を用いて行った。防除の効果は、アカミミガメの生息密度と割合で評価した。密度は1つの網あたりに捕獲したアカミミガメの数(Catch per Trap, 以下CPT)を求めて用いた。なお、捕獲したアカミミガメは当園の収容施設の亀楽園に収容した。これまでの防除作業により堂谷池では114個体、小松池では31個体のアカミミガメを防除した。2011年時の防除前には、アカミミガメの割合及びCPTは堂谷池41%,CPT2.3, 小松池80%, CPT1.5であったのに対し、防除後はいずれの池も割合、CPTともに0となった。ところが、その後の調査ではいずれの池もCPT0.5前後を推移していた。アカミミガメを根絶するのは難しいが、一度集中的に捕獲し、その後継続的な調査を行えば、アカミミガメの個体数を低密度に保つことができると考えられる。



防除前の多くのアカミミガメが甲羅干している様子。左図: 堂谷池(2010年5月), 右図: 小松池(2010年6月)
現在はこのような様子は見られない